

め の と



令和5年8月21日

長崎市立女の都小学校 校長 佐藤和幸

長崎市民として平和を考える

久しぶりに子どもたちの元気な姿が校舎に戻ってきました。学校では、友だちと夏休みの出来事を笑顔で話す子どもたちの様子も見られました。夏休みもあと10日となりました。生活リズムについてもご配慮いただきますようお願いいたします。



さて、8月9日の登校日は台風第6号接近のために中止となりました。

この日予定していた平和集会ができませんでしたので、本日、実施しました。長崎に住む私たちは、平和に関して高い意識を持っていると思います。その理由の一つは、毎年平和について真剣に考える機会を持っていることだと思います。子どもたちにも平和集会等を通して平和について真剣に考えてほしいと思います。

以下は、平和集会で私が子どもたちに話したことの概略です。ぜひお子様と一緒に読んでいただき、ご家庭でも平和を考えるきっかけの一つにしていただきますようお願いいたします。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・(平和について)・・・・・・・・・・・・・・・・

長崎の人にとって、8月9日は特別な日です。平和学習の中ですでに知っている人がほとんどだと思いますが、78年前、日本は外国と戦争をしていました。そのような中、8月6日午前8時15分に広島に1発の新型爆弾が投下されました。そして、8月9日よく晴れた日の午前11時2分、長崎市にも新型爆弾が投下されました。その威力はすさまじく、一瞬で多くの建物が破壊され、たくさんの方々の命が失われてしまいました。犠牲になったのは、お年寄りから赤ちゃんまで。当時はまだ、「原子爆弾」とか「核兵器」というものはほとんど知られていませんでした。そのため、放射能による被ばくが原因でも多くの方が亡くなりましたが、なぜ次々に多くの人たちが病気になって亡くなっていくのか、その時にはわからなかったそうです。

原子爆弾による大きな被害は主に3つです。一つは「高熱」。まるで太陽がもう一つ現れたようだったと言います。二つ目は「爆風」。爆発の中心部はすべてのものが吹き飛ばされて、建物に使われていた鉄もぐにやりと大きく曲がりました。三つ目は「放射線」。目に見えない放射線が体を壊してしまいます。78年たった今も、苦しんでいる人がいます。このような恐ろしい兵器は絶対に使われることがあってはなりません。

私たちが平和のためにできることは何でしょうか。それは、「正しく知ること」です。今、世界はどうなっているのか。戦争とはどんなに恐ろしいものなのか。今日の平和集会やこれまでの取組で、皆さんは戦争や原子爆弾のこと、また平和について多くのことを学び、考えることができたと思います。これからも学び続けることでより多くのことを正しく知ってほしいと思います。そして、自分にできることを実行してみましょう。「友だちと仲良くすること」「学んだことを誰かに伝えること」など、特別なことでなくて構いません。その積み重ねが、平和につながります。

皆さん一人一人が各学年の平和に関する発表を通して、平和について真剣に考えてくれたと思います。その思いをぜひ友だちや先生、おうちの人たちと交流してください。